

第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン  
(平成29年度～令和8年度)  
改訂版

令和5年3月

洞爺湖町教育委員会



## 目 次

1	見直しに当たって	1
2	現状及び課題	2
3	第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの実績と検証 (平成29年度～令和3年度)	4
4	第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの計画期間	5
5	計画の体系	6
6	基本理念	7
7	教育目標	8
8	基本目標及び基本方向	9

### [資料]

□第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しについて(諮問)	30
□第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しについて(答申)	32
□第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン見直しの経過	33
□アンケート調査結果の概要	34
□第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直し検討委員会設置要綱	103
□第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直し検討委員会委員名簿	105
□部会の設置について	106

## 1 見直しに当たって

平成29年度を初年度とする第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンを策定してから5年が経過したことから、この度、中間見直しを実施しました。

本計画がスタートした平成29年4月末の当町の人口(住民基本台帳)は、9,173人でしたが、令和4年4月末の人口(住民基本台帳)は8,214人で、大きく減少しています。

平成29年から令和3年(各年1月1日～12月31日)までの5年間の人口動態の状況ですが、自然動態でみると、出生が188人、死亡が821人で、死亡が出生数を大幅に上回り、△633人となっています。次に社会動態でみると、転入が2,090人、転出が2,335人で、転出が転入を上回り△245人となっています。その他の要因で△83人となっており、合計で△961人となり、毎年、190人程度の減少が続いてきています。

今後においても、人口減少をはじめ少子高齢化の進行、国際化、情報化等の進展など、先の予測することが困難な変化の激しい社会情勢が続くものと考えます。

このような状況を認識したうえで、計画期間の前半5ヶ年(平成29年度～令和3年度)の実績の検証を行い、この5ヶ年のなかでは、当初、計画では想定していなかったもので新たに組み込んだ主なものとして、国のGIGAスクール構想により令和2年度に児童生徒1人1台のタブレット端末を整備し、ICTを活用した学習を進めてきたことや、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標としてのSDGsの理念を踏まえながら、教育分野においても各種施策を進めてきました。また、新たな取組でも、人類のこれまでの営みをあらゆる分野で根底から覆した、新型コロナウイルス感染症の世界的流行で、計画の遂行に大きな困難をもたらすなど、今現在も収束が見えないなかでの、計画の中間見直しとなりましたが、計画期間の最終年度(令和8年度)に向け、実績の検証を踏まえるとともに、今後を見据え成すべき事業等を網羅するなどの見直しをしました。

町民の教育行政に対する期待は大きいものと理解をしており、この期待に応えるべく、当町の定める教育理念や教育目標の実現に向け、基本目標をもとに各種施策を展開し、日本の将来を担う子どもたちが、心豊かにたくましく成長し、全ての町民が健やかに生き生きと学び合うことができる生涯学習社会の実現に向け取り組んでいくこととします。

## 2 現状及び課題

### (1) 子育て支援に係る現状と課題

少子高齢化の急速な進行とともに、核家族化や夫婦の共働きが増加し、子どもや子育て世帯を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。また家庭の経済状況などにより、子育て環境に格差が生じ、社会問題ともなっています。これらを踏まえ、子育て支援については、国においても大きな政策課題となり、平成24年8月に「子ども・子育て関連3法」が制定され、国において施策の大きな柱として「子ども」に焦点が当てられるとともに、令和元年10月からは、教育・保育の無償化が実施されました。

当町においても、第2期洞爺湖町子ども・子育て支援事業計画（計画期間：令和2年度～令和6年度）の着実な取組が求められており、子育て世帯への新たな経済的負担を軽減する対策の実施など、子どもがのびのびと成長し、安心して子育てができる環境の充実に努める必要があります。

更に新型コロナウイルス感染症のまん延により、幼稚園・保育所・子育て支援センターや放課後児童健全育成事業が果たす役割も非常に大きくなり、施設や機能の充実を図ることも必要となっています。保育所については、老朽化や災害発生時には被災する可能性のある施設があり、これらは同じ地域内にあることから、統合に向け取組を進めます。

また、保護者をはじめとするすべての人々が、子どもの健やかな成長を実現するという目的を共有し、子どもの成育や子育て支援の重要性に対する関心と理解を深め、それぞれの立場で支え合い、見守りあえる体制づくりの支援に引き続き努めるとともに、ヤングケアラーや生理の貧困といった新たな問題への対応も必要となっています。

当町の未来を担う子どもの健やかな育成のため、家庭や地域社会、福祉・保健・教育などの関係機関が連携し、多様な子育て支援サービスの充実を図る必要があります。

### (2) 学校教育及び学習環境に係る現状と課題

現在、学校教育を進めるうえで大きな脅威となっているのが、新型コロナウイルス感染症に関する対応ですが、学校では新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底を図っていますが、児童生徒の感染者の発生による学級・学年閉鎖や学校閉鎖に伴う外出制限の措置がとられることなどにより、運動不足からくる体力の低下などの健康面が心配されるとともに、学校行事の中止や延期など、安定的な学校運営が脅かされる状況が続いています。

学校教育においては、国際化・情報化等の進展など、変化の激しい社会情勢の中で、地域の未来を担う子どもたちの「確かな学力」、「豊かな人間

性」、「健康・体力」の調和的な発達により、「生きる力」を育てる教育が求められています。とりわけ、学校教育においては、確かな学力の定着と生活習慣の改善が課題となっています。

特にICTについては、GIGAスクール構想により令和2年度に整備した1人1台のタブレット端末などを活用した学習の充実を図る必要があります。

当町の特性や地域の人材等を生かした特色ある教育・開かれた学校づくり、環境問題や国際化等の課題への対応が求められているとともに、家庭の教育力の向上にも努めなければなりません。また特別支援教育の充実、いじめ・不登校対策、道德教育、防災教育、体力・健康づくり、食育などにも、より積極的に取り組む必要があります。

安全で快適な学校教育環境は教育の基盤であります。今後においては、老朽化した学校施設などについては、長寿命化計画に基づき改修等に努めるとともに、地域の意見などを踏まえ町内公共施設の全体的な配置も考慮し、早期に一定の方向性を示すための取組を進めます。

高等学校教育については、道立高等学校1校となりましたが、地域における高等学校教育の確保を図るため、引き続き支援する必要があります。

### (3) 生涯学習に係る現状と課題

少子高齢化社会の進行や高度情報化社会など、社会情勢は日々大きく変化を続けています。価値観の変化や多様化などに伴い、町民一人ひとりの学習要求もますます多様に高度化しています。これらの課題に適切に対応し、誰もが生涯にわたって心豊かに学び続けることができるよう、生涯学習の観点に立ち、町の教育資源を活用しながら、家庭・学校・地域社会がより一層の連携・協働により学習や文化・スポーツ活動を推進していくことが必要です。

また、豊かな人間性の育成など時代を超えても変わらない大切なものをしっかりと次世代に継承していくとともに、時代の新しい課題を適切に受け止め、柔軟に対応してゆとりと潤いのある生涯学習社会の実現を図ることが求められています。

今後は生涯学習の中心となる社会教育施設の利用促進や地域ボランティアの人材登録、指導者やリーダーの育成、学習情報提供体制の整備充実などにより、生涯学習の基盤整備や各世代のニーズに即した特色ある学習プログラムの整備を促進する必要があります。

さらに携帯機器など情報端末機の普及に伴い、活字離れや本への興味が希薄化する中、町民の学習意欲と教養向上を図るために、読書活動の普及と図書の充実が不可欠です。

#### (4) 芸術、文化及び文化遺産に係る現状と課題

心の豊かさや生きがい、あるいは生活の潤いなどが重視され、芸術文化への関心が高まってきており、当町においても、地域に根ざした文化の継承、各種芸術・文化団体やサークルの育成や発表機会の充実などが求められています。このことから芸術・文化活動の活性化を今後も促進していくとともに、芸術の発信拠点となる洞爺湖芸術館や湖畔の彫刻群など地域ならではの特性を生かした作品鑑賞の機会や、幅広い年齢層へ対応した芸術鑑賞の提供等を含めた取組が必要です。

縄文遺跡の整備・活用においては、世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である入江・高砂貝塚を中心として、周辺景観を含めた保全を図るとともに、関係自治体や町内関係団体等と連携を図り、価値の伝達、理解促進に向けた活用を推進することが必要です。

また、当町には道指定の有形文化財入江馬頭観世音碑や入江貝塚出土の骨角器、町指定の曙・香川・月浦地区に伝わる獅子舞など指定文化財が多く、こうした貴重な文化財を保護するために、アイヌ文化を含む地域の歴史や文化の正しい理解と関係資料の保存や伝承などに努め、虻田・洞爺両地区の郷土資料の収蔵展示においても町の発展に使われた資料に親しむ機会の提供が求められます。

#### (5) スポーツ活動に係る現状と課題

スポーツを取り巻く環境は、少子高齢化社会の進展に伴い、スポーツの振興にあたっては各年齢層に応じ、また、体力などを考慮しながらそれぞれの年代に合ったスポーツ振興が求められており、近年は競技スポーツに加え、余暇や健康、コミュニティに重きを置いたニュースポーツが志向されるように、スポーツニーズの質的变化と多様化が進んでいます。

スポーツは、実践により心身の健全な育成や健康の保持・増進に欠くことのできないものでもあり、生涯にわたって健康で明るく豊かで生きがいのある生活を営むために、気軽に誰もが楽しめる環境づくりが必要です。

今後は、地域の自然や特性を生かしたスポーツや野外活動の振興を図り、各種団体やサークルなどの活動支援、指導者の育成や確保、参加機会の促進に努める必要があります。

### 3 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの実績と検証

第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しをするにあたり、計画期間（平成29年度～令和8年度）の前半5ヶ年（平成29年度～令和3年度）の各種事務事業の実績を検証しました。

検証は、第2期洞爺湖町まちづくり総合計画と第2次洞爺湖町の教育目標

と教育ビジョンを対比しながら、項目ごとに実績（主な事業等）の内容の確認と主管課の自己評価を加え、第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直し検討委員会において検証をしていただきました。

計画に定められている各項目の1つ1つについて検証をいただき、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、事業縮小や一部中止もありましたが、検証すべき期間中において、全く事業を行っていないものはなく、全ての事業等において概ね良好な取組であったとの検証結果でありました。

しかしながら、教育目標の達成は道半ばであり、新型コロナウイルス感染症が収束をみない状況下における教育行政の進め方など新たな対応を含めて、課題解決への更なる努力が必要であることも確認されています。

#### 4 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの計画期間

第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しにあたり、第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの検証結果（平成29年度～令和3年度分）と、学校教育や社会教育に関する課題や期待などを把握するために実施した町民アンケート調査結果をはじめ、当町の各種計画との整合性を視野に入れて見直しました。

計画期間は平成29年度から令和8年度までの10ヵ年で、変更はありません。



## 5 計画の体系

### 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン（計画期間：平成29年度～令和8年度）

#### 【教育理念】

- 自然豊かな大地で、自立の精神にあふれ、夢や希望の実現に挑戦し、これからの社会を担う人を育む
- 心豊かに、ともに支え合い、ふるさとに誇りを持つ人を育む

#### 【教育目標】

- 確かな学力、健やかな身体、豊かな人間性を育み、自立した生き方を支える教育の推進
- 家庭・地域の教育力を育み、地域特性を生かし、社会全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進
- 社会教育・芸術文化・スポーツを通し、協働的で潤いのある地域づくりのための生涯学習の推進
- 教育全体を支える自然、歴史、文化、産業等の地域特性を生かしたふるさと教育の推進

#### 基本目標

#### 基本方向

基本目標1  
SDGs・ESDの推進

基本方向1  
SDGs・ESDの推進

視点1 SDGs・ESDへの対応

基本目標2  
子育てをしやすい環境整備の推進

基本方向1  
子育て支援対策の推進

視点1 子育て支援の充実

基本目標3  
社会で生きる実践的な力の育成

基本方向1  
生きる知恵につながる確かな学力を育む、自立した生き方を支える教育の推進

基本方向2  
社会の変化に対応し、新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進

視点1 確かな学力の向上をめざす教育の推進  
視点2 コミュニケーション能力を育む教育の推進  
視点3 特別支援教育の推進

視点1 グローバル化への対応と地域間交流の推進（伝統や文化を大切にする教育、国際理解教育の充実及び地域間交流の推進）  
視点2 防災教育、情報教育の充実  
視点3 環境教育の推進  
視点4 高等学校教育の確保

基本目標4  
豊かな心と健やかな身体の育成

基本方向1  
豊かな人間性と感性を育む教育の推進

基本方向2  
心身の健やかな成長を促す教育の推進

視点1 豊かな心を育む教育（道徳教育）の推進  
視点2 読書活動の推進  
視点3 体験的な活動の充実  
視点4 生徒指導・教育相談の推進

視点1 体力・運動能力の向上  
視点2 食育・健康教育の推進  
視点3 福祉教育・ボランティア活動の推進  
視点4 安全教育の推進  
視点5 学校関連施設・設備の整備

基本目標5  
信頼される学校づくりの推進

基本方向1  
魅力ある学校づくりの推進

視点1 開かれた学校づくり  
視点2 特色ある学校づくり  
視点3 幼保・小・中・高の連携  
視点4 教職員の資質・能力の向上等  
視点5 学校力の向上

基本目標6  
地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進

基本方向1  
家庭教育力の向上への支援の充実

基本方向2  
地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進

視点1 家庭の教育力の向上

視点1 地域の教育力の向上  
視点2 子どもたちの安全を確保する体制づくり

基本目標7  
生涯学習社会の推進

基本方向1・視点1  
学んだ成果を生かす生涯学習の推進

基本方向2・視点1  
潤いのある地域づくりを目指した社会教育の推進

基本方向3・視点1  
文化・芸術活動の推進

基本方向4・視点1  
健康づくり・スポーツ活動の推進

## 6 基本理念

基本理念については、教育に対する根本的な考えであり、教育の継続性、安定性を図る観点から、変更はありません。

(以下に現在の基本理念を掲載します。)

### (1) 基本理念の考え方

《今後、重視すべき観点》

洞爺湖町の教育においては、「これまで以上に、保護者や地域の期待にこたえ、社会で自立して生き生きと活躍できる力を育むこと、そして、一人ひとりが互いに支え合いながら生きていることを自覚し、よりよい社会を築いていこうとする意欲を育むこと」が大切であるという、「自立」と「共生」の2つの考え方を基本理念の柱とします。

### (2) 基本理念

「自立」と「共生」を柱とする2つの基本理念は、それぞれ独立したものではなく、一体として捉えた上で、総合的に教育を行っていくことが大切です。

この視点に立って、洞爺湖町の未来を担う子どもたちが夢と希望にあふれ健やかに成長し、すべての町民が生き生きと充実した生活を送ることができるよう、これからの洞爺湖町が目指す教育の方向性を基本理念として次のとおり定めます。

## 基 本 理 念

- 自然豊かな大地で、自立の精神にあふれ、夢や希望の実現に挑戦し、これからの社会を担う人を育む

社会の変化に対応し、自ら学び自ら考える力を身に付け、自立の精神にあふれ、進んで社会を担おうとする主体性と責任感を持った人を育みます。

そして、夢や希望を持ち、社会で生きる実践的な力を身に付け、洞爺湖町はもとより国内外で活躍する意欲と創造力にあふれ、自らの目標に向かって挑戦する人を育みます。

## ■ 心豊かに、ともに支え合い、ふるさとに誇りを持つ人を育む

規範意識などの倫理観、人間尊重の精神や思いやりの心を持って、感性豊かに、相互に支え合って生きていこうとする人を育みます。

そして、どこに住んでいても、ふるさとに対する愛着と誇りを持って生活し、他者や自然との共生を図り、文化の継承・創造、スポーツへの取組などに積極的に参加・貢献し、健康的に生き生きと生活する人を育みます。

## 7 教育目標

地球規模の新たな諸課題に対応するため、世界の共通目標として掲げられたSDGsを、教育活動のなかでも取り組んでいくこととし、このSDGsの達成に向けて、あらゆる教育活動を通じて習得された知識、技能、価値観を行動変容に生かすことにつなげ、持続可能な社会の実現を目指して行う学習・教育活動（ESD）を実践していくこととします。

このことから新たに「SDGs・ESDの推進」を加えることとし、本計画の各種施策での取組となることから、基本目標1として、1つ目の目標とします。

なお、現在の基本目標は、そのまま（変更なし）とし、順次、繰り下げて設定します。

### 《子どもたちの目標》

## ■ 確かな学力、健やかな身体、豊かな人間性を育み、自立した生き方を支える教育の推進

確かな学力、健やかな身体、豊かな人間性・・・生きる力

### 《子どもたちを支える行政・学校・地域・家庭の目標》

## ■ 家庭・地域の教育力を育み、地域特性を生かし、社会全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進

学習機会を保障するための地域・家庭の教育力の充実・・・町長部局との連携及び開かれた学校づくり

《地域づくりを支える生涯学習の目標》

- 社会教育・芸術文化・スポーツを通し、協働的で潤いのある地域づくりのための生涯学習の推進

様々な学びを通した主体的な社会参画を促す生涯教育の環境整備

《教育全体を支える地域教育の目標》

- 教育全体を支える自然、歴史、文化、産業等の地域特性を生かしたふるさと教育の推進

幼児教育、学校教育、社会教育に地域特性の視点を取り入れたふるさと教育体制整備

## 8 基本目標及び基本方向

教育目標を実現するために7つの「基本目標」と、それぞれに「基本方向」を設定します。

### ＜基本目標＞1

#### ■ SDGs・ESDの推進

平成27年度に国連サミットにおいて、持続可能でよりよい世界をめざす国際目標としてSDGs（エス・ディ・ジーズ）が採択され、世界各国が協調し、共通目標の達成に向けた取組が進められています。本計画の推進に当たっても、このSDGsの理念を踏まえながら、各種施策を推進していくこととします。

基本方向1	SDGs・ESDの推進
-------	-------------

#### 視点1 SDGs・ESDへの対応

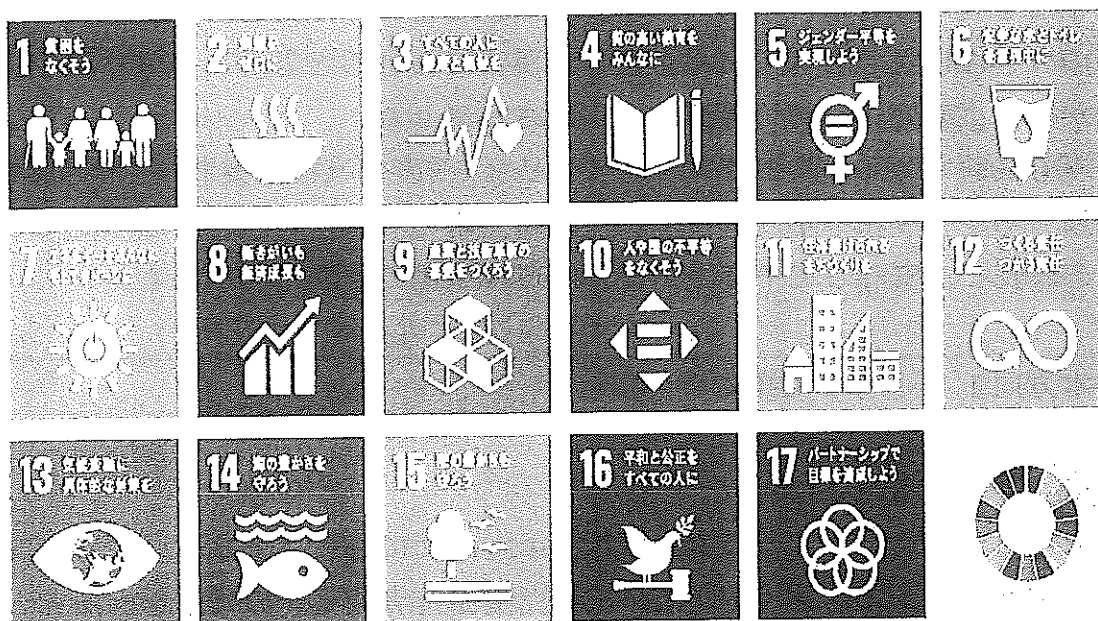
- 子どもから大人までが、地球規模の様々な課題を自らの問題と捉え、解決に向けて考え、行動する力を身に付けるなどの学習活動に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇持続可能な社会の構築に向け、子どもたちの発達段階に応じたSDGs\*の視点に立った環境教育、国際理解教育など、持続可能な社会を実現して

いくことを目指して行う学習・教育活動（ESD\*）に取り組むなど、本計画における各種施策の推進に努めます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



＝メモ＝

### ◆SDGs : Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

2015（平成 27 年）年 9 月 25 日に国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰 1 人取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。

### ◆ESD : Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)

今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。これら現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のことを指します。

## <基本目標> 2

### ■ 子育てをしやすい環境整備の推進

急速な少子化、核家族化の進行、共働き家族の増加などから、子どもや子育て家庭を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。

また家庭の経済状況などにより、子育て環境に格差が生じ、社会問題ともなっています。

平成24年8月に「子ども・子育て関連3法」が制定され、国において施策の大きな柱として「子ども」に焦点が当てられるとともに、令和元年10月からは、教育・保育の無償化が実施されました。

当町においても、第2期洞爺湖町子ども・子育て支援事業計画（計画期間：令和2年度～令和6年度）の着実な取組が求められており、子どもがのびのびと成長し、安心して子育てができる環境整備の推進に努めます。

### 基本方向 1 子育て支援対策の推進

#### 視点1 子育て支援の充実

- 安心して子育てができる環境整備のため、保育所運営事業、子育て支援センターの運営事業さらには放課後児童健全育成事業の推進を図るとともに、子ども・子育て支援法に基づく私立幼稚園等への支援に努めます。また、ヤングケアラー\*や生理の貧困\*といった新たな問題への対応など、子どもの将来が、その生まれ育った環境に左右されることのないよう、子どもの貧困対策など、子育て支援の充実に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇子育て支援センターを中核とし、関係機関等と連携をとりながら、子どもと親に対する子育て支援事業の推進を図ります。
- ◇子育て支援ネットワークづくりやスクールカウンセリングなどの環境整備に努めます。
- ◇子どもや親が安心して利用でき、子育て支援となる保育の推進を図ります。
- ◇老朽化した保育所施設の改築を推進するとともに、虻田地区の2つの保育施設については統合を図ります。
- ◇子ども・子育て支援法に基づき、私立幼稚園等への支援を推進します。
- ◇就労等で留守になる家庭の育成支援として実施する学童保育において保護者が安心して子育てと仕事を両立できる環境づくりと支援の充実に努めます。
- ◇保育所や私立幼稚園等の利用者負担金（保育料）の無償化など、経済的支

援により子育て支援対策の充実に努めます。

◇学校をはじめ関係機関等との連携により、ヤングケアラーの早期発見、早期対応に努めます。

◇小中学校において生理用品を備えるなど、生理の貧困対策に努めます。

◇中学校入学支援として、制服等購入における経済的支援に努めます。

◇就学援助制度の適正な運用により、義務教育の円滑な実施に努めます。

◇洞爺湖町育英資金の基金による貸付や給付により、就学の支援に努めます。

＝メモ＝

◆ヤングケアラー

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされています。

◆生理の貧困

経済的な理由などで、生理用品を十分に入手できないことを指します。

新型コロナウイルス感染症の拡大により「整理の貧困」に対する問題が世界的にクローズアップされ、支援を求める声が高まりをみせ、日本においても多くの地方自治体において生理用品の無料提供などの取組が行われるようになっていいます。（洞爺湖町においては、小中学校において生理用品を必要とする児童生徒が保健室を訪れた際に手渡すほかに、中学校では、女子トイレに置き、必要とする生徒が持ち帰ることができる取組を進めています。

### <基本目標> 3

#### ■ 社会で生きる実践的な力の育成

教育の役割は、子どもたち一人ひとりが将来においてその可能性を開花させ、自らの人生を幸福に過ごすことができるための基礎力を身に付けさせることです。

これからの子どもたちが個性や能力を生かし、自立した人間として生きていくために必要な知恵につながる確かな学力と思いやりの心などの豊かな心、生涯を通じて健康に過ごすことができる健やかな身体を、バランスよく育むことが何よりも必要なことです。

このことを踏まえ、基本目標3においては、学ぶ意欲の向上と学習習慣の定着を通じた確かな学力の育成に努めるとともに、豊かな人間関係づくりの基礎となるコミュニケーション能力などを育成することによって、自立した生き方を支える基本的な資質・能力を十分に身に付けさせ、その上で、社会の変化に対応し、新しい時代を生きていくための実践的な力を育成します。

そのため、次の2つの基本方向を目指します。

基本方向1	生きる知恵につながる確かな学力を育む、自立した生き方を支える教育の推進
-------	-------------------------------------

#### 視点1 確かな学力の向上を目指す教育の推進

- 子どもたちの学ぶ意欲の向上とともに、望ましい学習習慣を定着させ、自立した生き方を支える基礎的・基本的な資質・能力を育成するため、児童生徒の能動的な学習として主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるとともに、ICT\*等を活用し、発達段階に応じて、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び\*」と「協働的な学び\*」の一体的充実に努めるなど、確かな学力の向上に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇教育改善推進事業による学力向上の取組を進めます。
- ◇洞爺湖町独自の学力検査の実施に努めます。
- ◇英語検定、漢字検定の検定料助成など、学習意欲の向上を図る取組を進めます。
- ◇学習支援員の配置に努めます。
- ◇GIGA スクール構想\*により整備した1人1台のタブレット端末など、ICT（コンピュータやインターネットなどの情報通信技術）等を活用した学習活動の充実に努めます。



＝メモ＝

#### ◆個別最適な学び

全ての児童生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、教材や学習時間等を柔軟に設定して行う学び。また、児童生徒が幼児期から様々場を通じての体験活動から得た児童生徒の興味・関心、キャリア形成の方向性に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、児童生徒自身の学習が最適となるように調整した学びのことを指します。

#### ◆協働的な学び

児童生徒同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、探究的な学習や体験活動などを通じ、行われる学びのことを指します。

◆ICT: Information and Communication Technology の略で、情報通信技術のことを指します。

#### ◆GIGA スクール構想

令和元年12月に国が打ち出した政策で、児童生徒1人1台のパソコン・タブレットの導入や高速ネットワークの環境整備をすることにより、児童生徒個人に適した学びの環境を提供することなどを目的とした構想。洞爺湖町では、令和2年度に児童生徒1人1台のタブレット導入など環境を整備し、現在、小中学校でICTを活用した授業が進められています。

### 視点2 コミュニケーション能力を育む教育の推進

- 他者や社会との豊かな関係を築くためのコミュニケーション能力を育成するため、すべての教科等の基盤となる国語に関する能力の向上を図り、相手の考えや意見を正しく理解するとともに、自らの考えや意見を適切に伝えることができる能力の育成に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇各教科等の言語活動の充実を図るための学習指導の工夫・改善や児童生徒たちによる話し合いや発表の機会の充実に努めます。
- ◇読書習慣の確立に向けた全校一斉の朝読書など、言葉を学び自分らしい言葉や豊かな心を育む読書活動の推進\*に努めます。

＝メモ＝

※読書活動の推進

「読書活動の推進」については、本項目のほかに 18p にも同項目名で掲載しています。

**視点 3** 特別支援教育の推進

- 小・中学校等における LD（学習障がい）等を含む障がいのある子どもたちを支援するため、早期の実態把握の実施やシステムづくりを進めるなど、学校・家庭・地域・関係機関等が相互に連携を深めながら、障がいのある子どもたちの教育的ニーズに応え、一人ひとりを大切にする特別支援教育の推進に努めます。

【主な取組】

- ◇発達障がいのある子どもたちを支援するシステムづくりなどの特別支援教育の推進を図ります。
- ◇町独自に作成した乳幼児期から使用できる「子ども・子育て支援ファイルすくすく\*」の活用を促進するとともに、「指導計画」、「教育支援計画」の充実に努めます。
- ◇特別支援教育支援員や介護員の配置に努めます。

＝メモ＝

◆子ども・子育て支援ファイルすくすく

保護者・医療・保健・福祉・教育・労働機関等が連携し、子どもを見守り、支援していくための継続的な記録をし、医療、保健、福祉、教育等が行ってきた支援の情報の共有や、関係機関との連携や小学校入学時や進級・進学時の引継ぎを確実にを行うためのものです。なお、このファイルは、新生児訪問の時に保健師から保護者へ渡され、記入方法や活用の仕方を説明し、親子健康手帳と一緒に活用することで、子どもの発達状態を把握していきます。

**基本方向 2**

社会の変化に対応し、新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進

- 視点 1** グローバル化への対応と地域間交流の推進（伝統や文化を大切にする教育、国際理解教育の充実及び地域間交流の推進）

- 国際社会においては相互理解が大切です。そのため、まず、我が国・北海道及び洞爺湖町の歴史や伝統、文化について理解を深める教育を通じて、ふるさとに対する愛着や誇りをもって、国際社会の一員として生きていこうとする自覚の<sup>かんよう</sup>涵養に努めます。その上で、グローバル化が進展する現在、文化や考え方の多様性を理解し、世界の人々と協働していく力やグローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指す国際理解教育の充実に努めるとともに、令和2年度から外国語の授業が、小学校3年生・4年生は必修化（外国語活動）、小学校5年生・6年生は教科化となり、外国語授業によるコミュニケーション能力の育成に努めます。また、友好の絆で結ばれ交流が続く、姉妹都市の神奈川県箱根町や友好都市の香川県三豊市との交流の推進に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇外国語授業の充実や国際理解教育推進のため外国語指導助手（ALT）の配置に努めます。
- ◇英国ボランティア青年との国際交流活動により、国際理解の推進に努めます。
- ◇英語検定の検定料助成を行うなど、外国語への関心と理解を高める取組に努めます。
- ◇姉妹都市及び友好都市との交流の推進に努めます。

#### 視点2 防災教育、情報教育の充実

- 積雪寒冷な土地で有珠山噴火災害なども起こりうる洞爺湖町の自然環境にも配慮しつつ、火山災害やその他の自然災害に対する興味・関心を高める避難所開設体験学習会、胆振総合振興局や町防災担当部局等の関係機関の協力を得ての1日防災学校の開催など、防災教育の充実に努めます。また、情報化の進展などによる情報通信ネットワークの高度化に対応する情報活用能力や携帯電話・スマートフォンなどの普及に伴いSNS（ソーシャルネットワークサービス）などによる目に見えないところでの陰湿ないじめの発生などが後を絶たないことから、情報モラルの育成に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇中学2年生を対象とした避難所開設体験学習会や1日防災学校の実施をはじめ、有珠山噴火や地震、津波災害等の理解を深める学習の推進に努めます。
- ◇GIGAスクール構想により整備した1人1台のタブレット端末など、ICT（コ

ンピュータやインターネットなどの情報通信技術）等を活用した情報活用能力や情報モラルの育成に努めます。

### 視点3 環境教育の推進

- 地球環境問題が国際的な課題となる中、洞爺湖町における先人の自然との共生に関する優れた考え方などを踏まえ、洞爺湖町の豊かな自然を守る気持ちを育むなど、環境問題について自ら考え、環境に配慮した行動ができる取組を進めます。特に洞爺湖町は、日本初の「ユネスコ世界ジオパーク」認定地であることから、洞爺湖有珠山ジオパークを活用し、洞爺湖町の特性を十分に生かした環境教育の推進に努めます。

また、令和3年7月に入江・高砂貝塚を含む北海道・北東北の縄文遺跡群が、世界文化遺産に登録されており、縄文学習を通じて、郷土の歴史や風土を学ぶとともに、自然環境保全などの環境教育の推進に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇洞爺湖有珠山ジオパークの中心的地域にある洞爺湖町の特性を生かした環境教育に努めます。
- ◇入江・高砂貝塚の縄文遺跡を活用した環境教育に努めます。

### 視点4 高等学校教育の確保

- 入学者の減や施設の老朽化などにより平成28年3月末をもって洞爺高等学校が閉校し、平成28年4月から道立高等学校1校となりましたが、地域における高等学校教育の確保を図るための支援に努めます。また、当町では町外の高等学校等への進学率が高く、通学費や下宿費用などの教育費の負担が大きいことから、保護者の経済的負担軽減に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇人材育成と地域活性化を担う拠点として、道立高等学校の支援に努めます。
- ◇高等学校等に就学する生徒の通学や下宿等に要する費用に係る保護者の経済的負担の軽減に努めます。

## ＜基本目標＞ 4

### ■ 豊かな心と健やかな身体の育成

規範意識や基本的な倫理観、思いやりの心や豊かな感性など、豊かな心を育成します。そして、生涯を通じて、健康に過ごすことができるように、望ましい生涯学習の確立や体力・運動能力の向上を図るなど、健やかな心身を育成します。

そのため、次の2つの基本方向を目指します。

#### 基本方向1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進

##### 視点1 豊かな心を育む教育（道徳教育）の推進

- 幼児期から、発達段階に応じて、基本的な規範意識や公正な判断力、自らを律しつつ粘り強くたくましく生きる力、かけがえのない自他の生命を尊重する心など、基本的な倫理観を身に付けさせるとともに、自分の生き方を支え、精神的な拠りどころとなる、人間尊重の精神や生命への畏敬の念、思いやりの心や美しいものに感動する心など、豊かな心の育成に努めます。

##### 【主な取組】

- ◇規範意識や生命の大切さ、思いやりの心を育むなど、道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実に努めます。

##### 視点2 読書活動の推進

- 読書活動は、言語に関する能力を育み、人間形成や情操を養うなど、健やかな成長に不可欠なものです。令和2年度に「洞爺湖町子ども読書活動推進計画（第3次）」を策定しており、本計画に基づく自主的に読書活動に取り組む環境づくりの推進に努めます。

##### 【主な取組】

- ◇洞爺湖町子ども読書活動推進計画に基づく、読書活動の推進に努めます。
- ◇読書習慣の確立に向けた全校一斉の「朝読」や家庭での「家読」など、読書活動の推進に努めます。

##### 視点3 体験的な活動の充実

- 洞爺湖町が有する様々な教育資源を生かした自然体験活動、社会体験活動、文化芸術体験活動、文化財活用体験活動などの充実に努めます。また、

社会の一員としての自覚を深め、学習や生活の基盤づくりを進めるため、コミュニケーション能力向上のための機会の充実に努めます。

【主な取組】

- ◇洞爺湖有珠山ジオパークや世界文化遺産など、洞爺湖町が有する様々な教育資源を生かした体験的な活動に努めます。
- ◇体験的な活動を通してコミュニケーション能力向上のための機会の充実に努めます。

**視点 4** 生徒指導・教育相談の充実

- 学校生活がすべての子どもにとって有意義で充実したものになるよう、家庭や関係機関などとの連携を通じて、いじめなどの問題行動や不登校等の未然防止・早期対応のため、生徒指導・教育相談の充実に努めます。

【主な取組】

- ◇Q-Uテスト（学校生活意欲や学級満足度など学級集団の状態を調査するものです。）などの活用により、いじめなどの未然防止、早期発見、早期対応に努めます。
- ◇児童会・生徒会活動での主体的ないじめ防止活動の推進に努めます。
- ◇教育指導専門員やスクールカウンセラーなどの配置により、生徒指導、教育相談の充実に努めます。
- ◇洞爺湖町いじめ防止基本方針（洞爺湖町・洞爺湖町教育委員会作成）に基づき、学校、家庭、地域及び関係機関と連携し、町全体でいじめのない社会の実現に向けた取組に努めます。

<b>基本方向 2</b>	<b>心身の健やかな成長を促す教育の推進</b>
---------------	--------------------------

**視点 1** 体力・運動能力の向上

- 洞爺湖町における全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学5年生、中学2年生対象）では、近年、小学5年生は全国平均を上回る結果の年がある一方で、中学2年生になると全国平均を下回る年が多い傾向となっていますが、新型コロナウイルス感染症の感染対策である外出制限などの影響を受けて運動不足となっていることも一因にあるものと考えています。体力は人間が生きていくうえで、欠くことのできない根本的な要素です。学校と家庭、地域社会が連携を深めながら、運動する機会を増やすなど、体力・運動能力の向上に努めます。

### 【主な取組】

- ◇運動習慣の定着や生活習慣の改善を図るため、運動に親しむ機会の確保など、体力・運動能力の向上に努めます。

＝メモ＝

※体力、スポーツ等に関する記述

体力、スポーツ等については、本項目のほかに 27 p に「健康づくり・スポーツ活動の推進」の項目名で掲載しています。

### 視点 2 食育・健康教育の推進

- 学校・家庭・地域社会が連携し、食に関する正しい知識と望ましい食習慣の育成や、学校給食における地場産物の活用を通じて、地域の食文化や自然の恵みへの理解を深め、ふるさとを愛する心を育む取組を進めます。  
また、日常生活において健康に関する活動の実践を促すとともに、生涯を通じて健康で生き生きとした生活を送ることができるよう、学校と家庭及び地域社会が相互に連携を深めながら健康教育の推進に努めます。

### 【主な取組】

- ◇学校給食などを通じた、食品ロスの削減及び食文化の伝承等の持続可能な食を支える食育の推進に努めます。
- ◇がん、生活習慣病や薬物などの健康問題についての正しい知識を身に付けさせるなどの健康教育の推進に努めます。
- ◇フッ化物洗口の実施により虫歯予防の推進に努めます。

### 視点 3 福祉教育・ボランティア活動の推進

- すべての人、一人ひとりの人格を尊重し、思いやりの心を持って助け合うとともに、福祉の実践意欲を向上させる態度を身に付けることができるボランティア活動の推進に努めます。

### 【主な取組】

- ◇道徳教育における思いやりの心を育むことや総合的な学習の時間におけるボランティア活動などを通じた福祉教育の推進に努めます。

### 視点 4 安全教育の推進

- 事件・事故や災害などから子どもたちを守る取組を進めるとともに、子

どもたちが自ら事件・事故、災害等から身を守ることができるよう、学校、家庭、地域や関係機関が連携した交通安全教育、防犯教育などの充実に努めます。

【主な取組】

- ◇交通安全教室、防犯教室や防災に係る避難訓練の実施など、学校、家庭、地域や関係機関が連携した安全教育の充実に努めます。

**視点 5** 学校関連施設・設備の整備

- 学校施設は児童生徒の学習・生活の場であるとともに、災害非常時には避難場所となるなど、地域にとって重要な施設であることから、安全を確保するための耐震化工事を進め、平成 27 年度末をもって町内小中学校すべて完了しました。

今後においては、学校施設の長寿命化計画に基づき改修等に努めます。また、教職員住宅については、空き家が多くなっており、町長部局への移管を進め、普通財産として有効活用を図ります。さらに現行の 2 施設での学校給食センター運営については、令和 3 年度に設置した洞爺湖町学校給食センターに係る検討委員会から洞爺給食センターに統合する方向性が出されたことから、提言に基づいた取組を進めます。

【主な取組】

- ◇学校施設の長寿命化計画に基づき改修を図るなど、学校関連施設・設備の整備に努めるとともに、老朽化の進む虻田中学校校舎については、洞爺湖町の今後の教育の在り方等を踏まえながら検討します。
- ◇小中学校の適正配置については、各種状況を見据えながら検討します。
- ◇統合後の給食内容のソフト面での検討など、洞爺給食センターの 1 施設での運営に向けた取組を進めます。



## <基本目標> 5

### ■ 信頼される学校づくりの推進

子どもたちや地域の実情を踏まえ、学校においては、家庭・地域社会と連携を図りつつ、保護者や地域住民が学校運営に参画することなどによる地域とともにある学校づくり、地域に開かれた学校づくりを進めるとともに、地域の自然環境や人材などの教育資源を生かした特色ある学校づくりを進めながら、家庭や地域社会に信頼される学校づくりを推進します。そして教員については、子どもと正面から向き合い、子どもたち一人ひとりの成長に寄与できるよう、その資質・能力の向上を図ります。

そのため、次の基本方向を目指します。

### 基本方向 1 魅力ある学校づくりの推進

#### 視点 1 開かれた学校づくり

- 自己評価や外部評価など学校評価を適切に実施・公表することや、学校の教育活動その他の学校運営の状況について保護者等に対して積極的に情報提供することが重要です。また、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う児童生徒の成長を支える方策として各小中学校に設置したコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を通して、開かれた学校づくりの推進に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇学校評価を適切に行い、保護者や地域に信頼される学校づくりに努めます。
- ◇地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う児童生徒の成長を支える方策としてのコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の活性化に努めます。

#### 視点 2 特色ある学校づくり

- 地域の自然環境や人材などの教育資源を生かしながら、特色ある多様な教育活動を展開し、子どもたちが意欲的に学校生活に取り組むことができるような、特色ある学校づくりの推進に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇洞爺湖有珠山ジオパークや世界文化遺産など、洞爺湖町が有する様々な教育資源を生かした学校づくりの推進に努めます。
- ◇農業、漁業、観光といった主産業に対する知識、体験を含めた教育を推進し

ます。

### 視点3 幼保・小・中・高の連携

- 幼児・児童・生徒の発達段階を踏まえた教育活動の連続性など学校種間の連携・一貫などに配慮し、教育課程や指導方法の工夫・改善などを通じて、学校運営の充実に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇幼稚園・保育所・各学校間の授業参観やイベント参加などの交流や連携の充実に努めます。
- ◇小中一貫教育\*の導入の検討を進めます。

=メモ=

#### ◆小中一貫教育

小学校と中学校の義務教育9年間を連続した期間ととらえ、児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある学習指導・生活指導を行うとともに、小学校と中学校が協働して、系統的・継続的に行う教育のことを指します。

### 視点4 教職員の資質・能力の向上等

- 児童生徒が1日の大半を過ごす学習・生活の場である学校は、児童生徒の教育に直接携わる教職員の人間性や指導力によるところが大きく、子どもの心身の発達や人格形成に大きな影響を及ぼします。

このことから、教職員が子どもたちに対して深い愛情と使命感を持ち、豊かな人間性や社会性、さらに高い指導力を身に付けるなど、学校の活性化を図り、教職員の協働意識の高揚や保護者や地域住民の信頼関係を確保するため、教職員の法令等の遵守や服務規律の徹底に努めます。また、学校に求められるものも多様化し、教職員の業務量の増加による過大な時間外勤務が社会問題となり、教職員の働き方改革の取組が重要となっています。

#### 【主な取組】

- ◇専門研修への参加などにより社会性や指導力の向上に努めます。
- ◇職場研修会をはじめ様々な機会を通して、法令遵守や服務規律の徹底に努めます。
- ◇教職員の勤務時間の把握をはじめ、定時退勤日の実施や長期休業期間中の

学校閉庁日の設定など、洞爺湖町立学校における働き方改革指針に基づき、教職員の働き方改革に努めます。

◇部活動の地域移行に向けた取組を段階的に進めます。

#### **視点5** 学校力の向上

- 様々な教育的課題に対応するため、教職員の資質・能力の向上に加え、学校がこれまで以上に組織的に取り組む必要があることから、学校力の向上を支援する体制の整備に努めます。

#### **【主な取組】**

◇教育指導専門員の配置に努めます。

## <基本目標> 6

### ■ 地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進

核家族化、地縁的なつながりの希薄化などに伴う家庭や地域社会の教育力の低下を踏まえ、家庭と地域の結び付きを深め、地域全体で子どもを守り育てる機運を醸成し、家庭や地域の教育力の向上を図ります。

そのため、次の2つの基本方向を目指します。

基本方向 1	家庭教育力の向上への支援の充実
--------	-----------------

#### 視点 1 家庭の教育力の向上

○ 家庭は、子どもの教育に第一義的な責任を有するものであることから、家庭において、子どもが基本的な生活習慣などを身に付けたり、働くことの意義や必要性への理解などを通じて自立心を育み、心身の調和のとれた発達が図られるよう、家庭教育に関する情報提供の取組を進めるなど、家庭の教育力の向上に努めます。

また、若い世代が将来家庭を築き、子どもを生み育てることの意義や喜びなどについて理解を深めることができる取組の推進に努めます。

#### 【主な取組】

◇家庭教育に関する情報提供などを図り、家庭の教育力の向上に努めます。

基本方向 2	地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進
--------	----------------------

#### 視点 1 地域の教育力の向上

○ 地域住民への多様な情報・学習機会の提供や住民の地域活動への参画・協働の仕組みづくりを進めるとともに、地域全体で子どもたちを守り育てていこうとする意識を高め、子どもたちが異世代間の交流や社会体験活動、文化やスポーツなどの体験活動に主体的に取り組むことができるような活動拠点づくりを通して、大人と子どもの結び付きを強める地域の教育力の再生・向上に努めます。

#### 【主な取組】

◇青少年期において、地域づくりを担う指導者やリーダーなど地域活動に必要な人材の育成に努めます。

◇学校支援ボランティア等の地域人材を活用して小中学生の学習支援など、地域学校協働活動\*の推進に努めます。

- ◇放課後の学習機会の提供を進め、地域未来塾による学習習慣と基礎学力向上に取り組みます。
- ◇とうや湖ゲンキッズといきいき学園の合同開催など異世代間の交流を進め、社会との関わりやコミュニケーション能力の向上を図ります。
- ◇親子のふれあう時間の大切さを推進するため、家庭での余暇の過ごし方に関する情報等を提供し、家庭や地域社会の教育力向上に向けた啓発活動に努めます。
- ◇子ども会やスポーツ少年団の活動を支援し、心身の健全な育成や健康の保持、増進に努めます。

＝メモ＝

◆地域学校協働活動

幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことを指します。

**視点2** 子どもたちの安全を確保する体制づくり

- 地域住民やボランティア団体等の協力を得ながら、地域における安全・防犯のネットワークづくりを推進するなど、家庭、学校、地域社会が一体となって、子どもたちの安全と安心を確保し、社会全体で子どもたちを守り育てることができる、効果的で継続的な体制づくりの推進に努めます。

【主な取組】

- ◇学校と家庭・地域及び関係機関が相互に連携して、地域全体で子どもたちを守り育てる安全・安心の体制づくりに努め、安全確保に向けた意識の高揚と普及・啓発活動を推進します。
- ◇学校、PTA、道路管理者、伊達警察署や町交通安全部局及び教育委員会を構成員とする、洞爺湖町通学路等安全推進会議により通学路等の合同点検を実施するなど、洞爺湖町通学路等交通安全プログラム等に基づく取組を進め、安全・安心の確保に努めます。

## <基本目標> 7

### ■ 生涯学習社会の推進

生涯のいつでも、どこでも、自由に学習機会を選択して豊かに学び、文化に親しみ、スポーツを楽しみ、かつ、学んだ成果を生かすことのできる洞爺湖町らしい生涯学習社会の実現に向けた環境づくりに努め、社会教育や文化・スポーツ活動の充実を図ります。

そのため、次の4つの基本方向を目指します。

基本方向 1	学んだ成果を生かす生涯学習の推進
--------	------------------

#### 視点 1

- 北海道、関係機関、団体との連携・協力により、住民の要望に応える様々な学習機会の提供や、学習成果を適切に評価し、地域活動などに積極的に活用することができる環境づくりに努めます。また、洞爺湖町の特성에対応した学習環境の充実と豊富な学習資源の有効活用に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇ 町民の学習ニーズを把握し、幅広い連携と協力の下で町民カレッジ事業の充実を図ります。
- ◇ 自主的な学習活動の促進を図るとともに、地域の活動リーダーの養成に努めます。
- ◇ 町民の主体的な学びと活動を促進し、図書施設や郷土資料館などの社会教育施設の整備の充実と学習環境の充実に努めます。
- ◇ 学習成果を地域活動やボランティア活動に生かし、ICT（コンピュータやインターネットなどの情報通信技術）等を活用した事業の充実や発信に努めます。
- ◇ 四季の野外観察会など自然の大切さを学ぶ機会づくりに努めます。
- ◇ いきいき学園（高齢者活動推進事業）参加者のニーズに応え、楽しい学習や体験活動の工夫に努めます。

基本方向 2	潤いのある地域づくりを目指した社会教育の推進
--------	------------------------

#### 視点 1

- 心の豊かさをもたらす潤いのある地域づくりを目指し、学校、家庭、地域住民及び関係団体などが相互に連携・協力して多様化・高度化する学習ニーズや社会の要請にこたえとともに、家庭や地域社会を取り巻く様々

な課題に対処していくため、洞爺湖町の特色や地域の特性を生かした社会教育活動の推進に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇子ども読書活動推進計画に基づき、より多くの人々が本に親しめるよう、読書活動を促進します。
- ◇社会教育施設において、サークルなどの活動情報や仲間づくりに関する情報など地域住民が必要としている情報を広く収集し、提供に努めます。
- ◇洞爺湖町男女共同参画計画の推進を、関係部局と連携して進めるとともに、普及啓発に努めます。
- ◇学校・家庭・地域が相互に連携して潤いのある地域づくりに努めます。
- ◇成人・高齢者の経験や豊富な知識を生かした活動の場の提供に努めます。
- ◇社会教育施設や既存の公共施設の有効活用や安全確保を図るとともに、町全体の施設の在り方や整備等の検討に努めます。

### 基本方向 3

### 文化・芸術活動の推進

#### 視点 1

- ゆとりや潤いなど心の豊かさにつながる、文化・芸術に親しむことのできる環境づくりを進めるため、町民の自主的な文化活動への参加や芸術鑑賞などの文化に触れる機会を充実するなど、文化・芸術活動の推進に努めます。また、世界文化遺産と地域の文化財の保存と活用に努めます。

#### 【主な取組】

- ◇美術館・博物館の見学や鑑賞事業の実施など、町民のニーズを把握しながら優れた芸術文化・文化財に接する機会の提供に努めます。
- ◇地域の文化団体の取組に対する支援を通じて、個人またはサークルの芸術文化活動の参加促進を図ります。
- ◇世界文化遺産に登録された縄文遺跡群を未来に引き継ぎ、4道県（北海道、青森県、秋田県、岩手県）及び構成する関係市町と連携した取組を推進します。
- ◇世界文化遺産と世界ジオパークの一体的な理解促進に努めます。
- ◇洞爺湖芸術館及び洞爺湖畔に設置されている彫刻群等の芸術作品を活用し、優れた芸術に触れ、学び、大切にする心を育む機会の提供に努めます。
- ◇地域の歴史を学ぶ機会の充実に努め、町内の有形、無形文化財の調査及び保存、活用を図ります。

- ◇町民ロビーを個人や団体の創作活動の発表の場として有効活用を図ります。
- ◇郷土資料の定期的な展示替えで地域の歴史や文化を学ぶ機会の充実に努めます。

基本方向 4	健康づくり・スポーツ活動の推進
--------	-----------------

**視点 1**

- 生涯の各時期や個人に応じた健康づくりの推進に努めるとともに、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康で生き生きとした生活を送ることができるよう、スポーツ指導者やスポーツ少年団の育成など多様なスポーツの振興に努めます。

**【主な取組】**

- ◇スポーツを通して体力向上や生活習慣病の予防など心身の健康増進を図り、体を動かす習慣や意欲を高める教室の機会充実を図ります。
- ◇親子でスポーツに親しむ種目を取り入れ、機会の提供と普及に努めます。
- ◇スポーツ少年団などの運営を支援し、活動の促進を図ります。
- ◇総合型地域スポーツクラブの支援と活動の普及啓発に努めます。
- ◇高齢者の方々がスポーツに親しめる機会や情報の提供、高齢者運動会などへの協力を推進します。
- ◇スポーツ関係団体との連携、協力を図り、スポーツに関する情報の収集や発信に努めます。
- ◇地域のスポーツを担うスポーツ推進委員等指導者の育成に努め、町民のニーズに応じた事業に取り組みます。
- ◇スポーツを通じた交流に繋がるようスポーツ団体や他市町などと連携し、交流事業や各種大会などの交流促進に努めます。
- ◇プロスポーツ選手等とのスポーツ教室や講話等の機会づくりに努めます。
- ◇町民のニーズを把握し、新しい競技種目の導入に努めます。
- ◇体育施設や学校施設の開放など既存の公共施設の有効活用や安全確保を図るとともに、町全体の施設の在り方や整備等の検討に努めます。



## 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの 見直し資料



洞教管第 4 3 9 号  
令和 4 年 9 月 2 1 日

第 2 次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン  
の見直し検討委員会委員長 瀧 澤 義 守 様

洞爺湖町教育委員会教育長 渋 川 賢 一

第 2 次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しについて  
(諮問)

このことについて、平成 2 8 年度に策定した第 2 次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンについて、計画期間の中間となる 5 年を経過したことから、今般の社会情勢やその他の諸事情を踏まえ、同計画の見直しについて、別紙諮問文により第 2 次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン見直し検討委員会に諮問しますので、ご検討、ご審議のうえ答申くださいますよう、よろしく申し上げます。

記

1 答申期日 令和 5 年 1 月中旬

## 諮問文

第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンは、平成29年度を初年度として10年の計画期間として策定され、町民の多様な要望に応えるべく様々な教育活動の推進に努めてまいりましたが、令和3年度末をもって計画期間の5年を経過しました。

学校教育では、小学校において英語（外国語）の授業が、令和2年度から3・4年生を対象に必修化、5・6年生を対象に教科化されました。

また、国のGIGAスクール構想に基づく小中学校の児童生徒、1人1台のコンピュータ端末整備による学習活動が本格化するなど、学習環境が大きく変容をみせています。

その他、児童生徒の学力向上や教育関連施設の老朽化など、多くの課題を抱えております。

さらには、新型コロナウイルス感染症という人類を脅かす感染症の出現で、社会経済活動にも甚大な影響をもたらし、教育分野では、小中学校等が全国一斉に臨時休業となるなど教育活動に大きな影響と困難をもたらし、この感染症の出現から2年を経過しますが、未だに収束を見通せない厳しい状況が続き、これまで当たり前であった日常が大きく変わり、将来の予測が困難な時代に直面しています。

社会教育においても、生涯を通して学ぶ機会や、その成果を適切に生かす場が失われたり、縮小したりするなど、コロナ禍における生涯学習の在り方を改めて見直すとともに、男性も女性も意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを一層推進していくことが求められております。

このような諸状況を踏まえ、洞爺湖町の未来を担う子ども達が心豊かにたくましく成長し、すべての町民が健やかで充実した生活を送ることができるよう、生涯学習の推進に向けこれからの洞爺湖町の教育の方向性などを示す「第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン」の見直しについて諮問いたします。

なお、本町の諸計画との整合性なども視野に入れて策定くださるよう希望いたします。

令和5年3月9日

洞爺湖町教育委員会  
教育長 渋川 賢一様

第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン  
の見直し検討委員会委員長 瀧澤 義守

第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しについて（答申）

令和4年9月21日付け洞教管第439号で諮問のありましたこのことについて、  
審議を重ねた結果、別紙のとおり答申いたします。

## 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン見直しの経過

- (1) 第1回見直し検討委員会（令和4年9月21日）  
[議題等]
  - ① 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直し検討委員会設置要綱について
  - ② 委員長、副委員長の選出について
  - ③ 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しについて（諮問）
  - ④ 今後のスケジュールについて
  - ⑤ アンケート調査の実施について
- (2) 第2回見直し検討委員会（令和4年12月15日）  
[議題等]
  - ① 部会の設置について
  - ② 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン実績及び検証について（平成29年度～令和3年度分）
- (3) 第3回見直し検討委員会（令和4年11月15日）  
[議題等]
  - ① 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しに関するアンケート調査集計結果について（報告）
  - ② 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン実績及び検証について（平成29年度～令和3年度分）（継続審議・まとめ）
  - ③ 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しの検討について
- (4) 第4回見直し検討委員会（令和5年1月23日）  
[議題等]
  - ① 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン実績及び検証について（平成29年度～令和3年度分） まとめ
  - ② 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの見直しの検討について まとめ
  - ③ 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン（平成29年度～令和8年度）改訂版（素案）の検討について
- (5) パブリックコメント  
改訂版（素案）のパブリックコメントを実施（町の広報やホームページ等により周知のうえ意見募集（令和5年2月6日～令和5年3月6日）

## アンケート調査結果の概要

### I 調査の概要

#### 1 調査の目的

本調査は、第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン（計画期間：平成29年度～平成38年度）が計画期間の5年を経過することから、学校教育や社会教育に関する課題や期待などについて把握し、多くの皆様（町民、保護者、教職員、社会教育団体）からの意見を計画の見直しに生かすことを目的として実施するものとするものです。

#### 2 調査方法

(1) 洞爺湖町全域

(2) 調査対象者 700名

ア 住民基本台帳に登録されている18歳以下の子どもをもつ世帯・保護者 534名

イ 小中学校の教職員 74名

ウ どうやこ幼稚園職員 14名

エ 社会教育団体等の役員 78名

(3) 調査方法

郵送配布、郵送回収、WEBによる回答

(4) 調査期間

令和4年9月28日（水）～10月12日（水）

#### 3 回収結果

回収結果等 アンケート区分	配布数	回収数 (回答方法)		回収率 (%)
18歳以下の子を持つ世帯、幼稚園職員、社会教育団体関係者アンケート	626	用紙回答	137	31.31%
		WEB回答	59	
		計	196	
小中学校教職員アンケート	74	用紙回答	26	79.73%
		WEB回答	33	
		計	59	
合 計	700	用紙回答	163	36.43%
		WEB回答	92	
		計	255	

#### 4 結果の概要について

結果の概要を、質問ごとにそれぞれ掲載します。各質問で割合を示す数値については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値は必ずしも100にはなりません。また、質問によっては複数回答の場合もあることなどから、それらの合計値は100にはなりません。

質問にその他の記載があった場合は、それらも記述しています。